

開講期	2026年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5326 日本語学序論1			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	水曜2限				
教室	J101教室				
代表教員	苅宿 紀子				
担当教員	苅宿 紀子				
テーマと到達目標	<p>【テーマ】 日本語はどのような言語なのだろうか。世界における日本語の位置付け、音声・音韻、語彙・意味に関する基礎的な事項について、体系的に解説する。早口言葉はなぜ言いにくいのか、類義語の使い分けとは、といった身近な疑問から日本語のしくみについて考えたい。</p> <p>【目標】 ①身近な言語事象について客観的に考えられるようになる。 ②日本語学の音声・音韻、語彙・意味に関する基礎的な用語を身につける。</p>				
概要	<p>「日本語は特殊だ」「日本語は難しい」とよくいわれるが、日本語学の観点からみてその言説は正しいのだろうか。日本語学が目指していることを確認しながら、「日本語」がどのような言語であるのかを考える。</p> <p>日本語の音声・音韻については、まず音声器官のどこをどのように用いているのかを実際に発音しながら考える。また、言語によって異なる音の範囲、「サカ」「サッカ」「サンカ」の違い、アクセントの「ゆれ」などを具体例を挙げながら体系的に考えていく。</p> <p>日本語の語彙・意味については、なぜ外来語が定着したのか、語と語が組み合わさる場合にどのような法則があるか、「意味」とは何か、などについて具体例を挙げつつ考察する。</p>				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	オリエンテーション				対面授業
第2回	世界の中の日本語ー————— 日本語は特殊な言語なのか				対面授業
第3回	音声① 音声器官/子音の分類————— どこをどう使って発音するのか				対面授業
第4回	音声② 音素/母音の分類————— アイウエオはどんな音なのか				対面授業
第5回	音声③ 特殊音素————— 「ン」はどんな音なのか				対面授業
第6回	音声④ 拍とリズム————— 音の「長さ」とは				対面授業
第7回	音声⑤ アクセントの体系————— 「箸」と「橋」と「端」				対面授業
第8回	音声⑥ イントネーション————— いろいろな「ソウデスネ」				対面授業
第9回	語彙① 語と語彙/語彙体系————— 「語」をどう認定するか				対面授業
第10回	語彙② 和語・漢語・外来語————— 現代語の語種の構成とは				対面授業
第11回	語彙③ 単純語・複合語・派生語————— 「目薬」と「目の薬」				対面授業
第12回	語彙④ 辞書————— 「恋愛」の【意味】とは				対面授業
第13回	意味① 意味とは/比喩————— 同じ意味の語は存在するか				対面授業
第14回	意味② 類義語/シソーラス————— 「ホス」と「カワカス」				対面授業
第15回	学修内容のまとめ				対面授業
成績評価の基準	<p>平常点(授業中の課題と出席状況)【50%】と最後のまとめの内容【50%】で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の課題に対するフィードバックは授業時に行う。 ・授業回数の3分の2以上、出席した場合に成績評価の対象となる。 				
履修にあたっての留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は総合文化学科の専門科目である。 ・「国語」の教職課程、日本語教員養成プログラムの必修科目である。 ・授業は受講生に課題を出しながら進めていくので、課題に積極的に取り組むこと。 ・遅刻・無断退室は認めない。 				
オンライン授業方式(同時双方向)					

型・オンデマンド型)の詳細	
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件	

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書	使用しない。適宜プリントを配布する。	教科書(ISBN)	
参考文献	授業時に紹介する。	参考文献(ISBN)	

◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	<p>本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること</p>
--------------------	---